



の いる 風 景

平 稔子 さん



【たいら としこ さん】 文京

●スタジオ・ヴィエント事務局長

千歳市芸能赤十字奉仕団の副委員長も務める。ヴィエントは、毎週日曜日10時30分から東雲会館でフラメンコの練習をしています。皆さん一緒に楽しみませんか？

連絡先 ☎(28) 5 1 1 4

「Oie(オレ)！」と声をかけてください。

「ヴィエント」。スペイン語で「風」を意味する言葉。フラメンコの団体、スタジオ・

ヴィエントで事務局長を務める平さんは、千歳にスペインの風を巻き起こそうと活動している。

フラメンコは、スペイン南部で発祥した民族舞踊と言われ、帽子やアパニョ(扇子)、カスターネットなどを使い、底に釘を打った靴で音を出しながらリズムを刻み、ギターと手拍子、歌に合わせて踊る。

幼少の頃に祖母の影響で日本舞踊を始め、学生時代には新体操をしていた平さん。「リボンやポールを使う新体操ができるなら、道具を使って踊るフラメンコもできるはず」と子育てが一息ついた14年前にフラメンコを始めた。

「特にリズムを刻むことが難しく、できない悔しさがフラメンコをやめられない理由になった」と笑う。

現在、ヴィエントは、4歳から75歳までのメンバー12人で活動し、北ガス文化ホール(市民文化センター)で開催する市民芸術祭や公民館まつりなどで踊りを披露している。「髪を結ってくれる方、衣装を縫ってくれる方、イベントの映像を撮ってくれる方など千歳にいるたくさんの方の芸術家の方に支えられて、私は踊ることができている」と話す。

「イベント会場に足を運ばない方にも踊りを見てもらい、少しでも皆さんを元気づけられたら」と思い、4年ほど前から千歳市芸能赤十字奉仕団の一員にも加わり、グループホールで開催される敬老会やクリスマス会などのときに、踊りを披露している。「初めは、参加することを恥ずかしながら観客も、次第に手を上げながら応援してくれ、踊り手と一緒にステージを盛り上げてくれる」とその光景を振り返る。

「本気の踊りを伝えるために、見せる相手が誰でもあっても、踊る場所がどこであっても一切手を抜かない。本気で表現していることが伝わらなくなるから」と力強さをみせる。

また、「嬉しさや悲しさ、苦しさが喜怒哀楽を表現する踊りがフラメンコ。フラメンコは『私の人生そのもの』。日常で感じた思いを、自分の踊りで表現できるようにになりたい」と志は高い。

ヴィエントは、今年も11月3日に開催される市民芸術祭で踊りを披露する。「会場で私たちの本気の踊りを見てほしい。そして踊っている私たちの姿を見たときは、『Oie(オレ)』と声をかけて」と平さん。スペイン語で「頑張る」を意味する言葉。

「スペインの風を感じてもらいながら、踊り手と観客が一体になれるような踊りをしていきたい」と素敵な笑顔で話してくれた。